

# 中村設計新聞

第七十三号

一月十九日(土)晴れ

今期は『時代』を土曜研修の年間テーマとし、今月は『江戸』をとりあげ研修を行いました。



## ○はじめに

午前は、所内にて江戸時代に新年の行事として庶民に普及した「餅つき」を行いました。午後からは昨年耐震改修を終えた京都四條南座へ観劇に行きました。

## ○餅つき

餅は古代稲作伝来期からあり、神聖な食べ物として季節の節目(正月、節分)等に食べられてきました。江戸時代に武家の年中行事となり、商家、農家に広がりました。神仏だけでなく、農具にも餅を供えて農作と家内安全を祈りました。また、一人では餅をつくことはできないことから、連帯感を高める意味もあります。それでは、所員一同力を合わせて頑張りましょう!



↑餅をつく前に、餅米を潰します。  
↑蒸している間に臼と杵を温め、薬味を準備します。  
↑前日から餅米を水につけます。



↑いい感じかな。よし!餅をつくぞ!  
↑うまく蒸し上っているかな?  
↑水を切り、一時間程蒸します。

**○レポート**  
今回、初めてお餅つきに参加させて頂きました。私の子供達が小さい頃は臼と杵で餅つきを毎年行っておりましたが、最近機械でするようになり、久しぶりに臼と杵でお餅つきをする光景に出会えて嬉しかったです。蒸した餅米を杵でつくのは、思っているより難しく上手につくことが出来ませんでした。昔をつき出し頑張りました。昔をつきたてのお餅は大変おいしく色々な食べ方も出来、心ゆくまで楽しむことができました。最後に、この餅つきに参加された方々を食べました。また、一緒に餅を食べました。また、山田みさ子



↑完成!さて、出来栄は・・・



↑ヨイショ!ヨイショ!



↑醤油、きな粉、大根おろし等でおしくいただきました。



↑合いの手との息もぴったり

## ○京都四條南座

南座は、江戸時代から今日まで、歌舞伎発祥の地で悠久四百年にわたり歌舞伎を上演し続けてきた、日本最古の劇場です。官許の証である芝居小屋を備えた桃山風、破風造の外観を特徴とする建築であり、日本を代表する劇場の一つとして、戦前、戦中、戦後の混乱期にも演劇の灯を絶やさすことなく維持してきました。また、国の登録有形文化財に登録され、京都市の歴史的意匠建造物にも指定されています。



↑大正時代の南座



↑昭和の南座 鉄骨鉄筋コンクリート造 5階建て

## ○改修工事について

昭和初期に建築された文化財としての価値や劇場のもつ魅力の保存継承を図るに当たり「伝統を保存修復し、次代へ継承発展する」をコンセプトに改修工事が進められました。改修工事の内容は、耐震補強工事、劇場設備の一新。劇場空間を損なわない形で耐震性能基準値を満たすように計画され第三者判定による計画認定を取得されています。

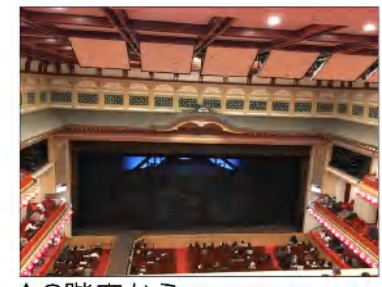
## ○レポート

四年前も土曜研修で訪れましたが、それ以来の南座。耐震補強工事によって風が変わっているのかと思いましたが、そのままでの姿を残すよう工夫して工事されたようで、文化財として美しく改修されていました。観賞した喜劇は昔のネタが分からない部分がありましたが、役者同士の掛け合いやキャラクターが面白く楽しめました。

大村 周平



↑1階席花道から



↑3階席から破風造りを意識した内装です。



↑集合写真「有頂天団地」を鑑賞しました。



↑照明は全てLEDに改修されています。

## ○まとめ

新年らしく餅つきを行い、所員の連帯感を高められました。つきたてのお餅は格別でした。南座では事前に改修内容を学習する事で建築要素の勉強に繋がりが、かつ、演劇鑑賞を行い、とても有意義な時間となりました。

## ○クイズ

現在は南座のみとなりましたが、かつて、四條河原にはいくつの芝居小屋があったでしょうか。  
①五棟 ②七棟 ③八棟 ④十棟  
正解は、次回の中村設計新聞で!



→改修後の南座(外観)↓